



# 日彫会報

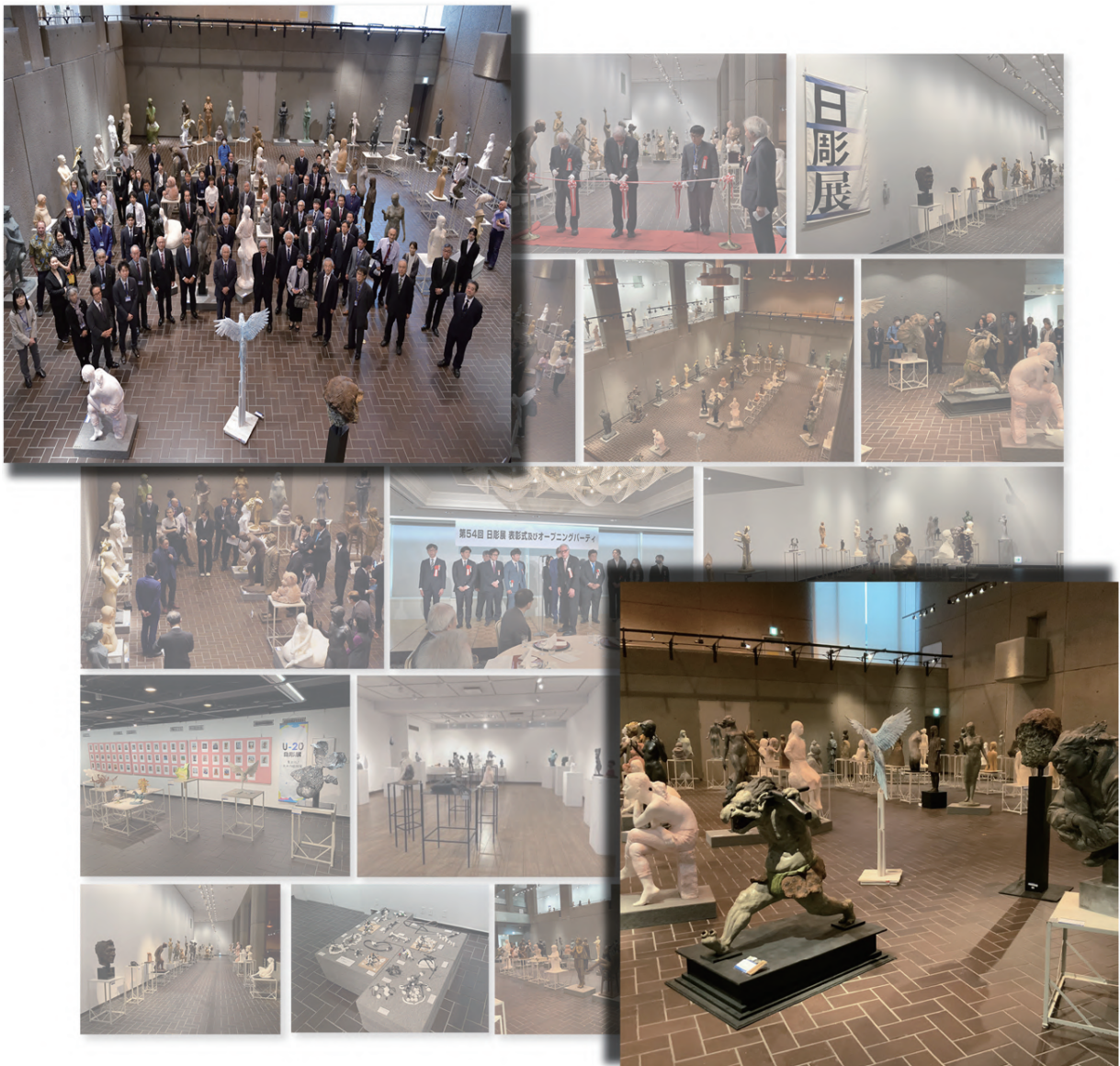
公益社団法人  
日本彫刻会

事務所 〒169-0075 東京都新宿区高田馬場1-29-18 レジョン・ド・諏訪202号室

TEL 03(3209)1861 FAX 03(3232)0557

<https://www.niccho.com/> email: [jimu@niccho.com](mailto:jimu@niccho.com)

## 振り子の向かう先に





## 第54回日本彫刻会展覧会を振り返って

日本彫刻会理事長 宮瀬富之

今朝（8月7日）日本人最多90万人減と少子化現況を新聞に見ました。

私の学生の頃、美術系の大学に限らず受験生で溢れていました。そして、合格を逸し、浪人を余儀なくされた方々が多くおられました。わずか60年で多くの事が夢のように様変わりしていく時代の変化の早さを痛切に感じています。

現今、いずれの公募団体展も高齢者の加速とともに退会者・入会者の拮抗が取れないまま、少子化という厳しい社会情勢の歯車に巻き込まれているのは、皆様にも周知の事だと思います。

そんな中、第54回日彫展が盛大に開催されました事、会員・会友の皆様様の心温かいおかげであると感謝申し上げます。

今という時代の中で「遊び心」「冒険心」ある作品をテーマにして挑んでほしいとお願いしました所、先達の先生方の作品を追従するのではなく、真新しいコンセプトでの創意工夫された多くの作品に接する事が出来ました。そして、今までの日彫展になかった幾つかの大きな収穫ある作品に遭遇し、嬉しくなりました。それらの作品は外部審査員の評価も高く、審査をしていて楽しくなる思いでした。伝統ある作品群の中でキラリ光る作品はさらなる伝統を昇華させる要因であり、その大切さを観させて頂いた気がしました。

それから、作品表現方法の多様化の時代、初めて、3Dプリンタの出力作品が入選となりました。それはこの先、いずれさらに精密・緻密な作品になるうかと思わせる作品でした。

全体を通しての反省としては、若干、デッサン力の乏しさを感じさせる作品が見受けられました。視覚障害のある子ども達との美の感動の共有は引き続き行われ、大変良い評価を得ました。

20歳以下を対象とした「U-20日彫展」は、前年度に比して応募者は少し減でしたが、大変内容の充実した作品が多く、次世代へと彫刻のバトンを継ぐ力強さを感じました。

今、少子化現象の中にあって、美術系大学の若者の殆どが「アニメ」魅力に惹かれているようです。「アニメ」が少子化での輝く星なのでしょうか？

富澤有為男（昭和十一年第4回芥川賞）氏は、世の中は時計の振り子だと云っています。思想の流れ、流行物、国の政治、なんでも右にいたり左にいたり、決して真ん中に止まる事はないでしょう。

私達は永い伝統ある流れの中に身を置いて今日も頑張っています。さらに懸命に励み続ければ、少子化の中にあっても、必ずや再び振り子はこちらに向かって来る事を信じています。

# 2025年度 日本彫刻会総会

## 第96回通常総会報告

2025年1月26日(日) 14時20分から日展会館において第96回通常総会が開催されました。

出席者正会員166名(内委任状131名) 定款17条の定めるところにより総会は成立しました。

### 議事

- 第1号議案 2024年度事業報告承認の件
  - 第2号議案 2024年度決算報告承認の件・監査報告
  - 第3号議案 第54回日本彫刻会展覧会開催に関する件
  - 第4号議案 出品料徴収及び定款の施行細則変更の件
  - 第5号議案 会員資格喪失の件
  - 第6号議案 会員状況承認の件
  - 第7号議案 その他の件
- 各議案とも異議なく承認されました。

### 報告事項

- 1 2025年度事業計画の報告
- 2 2025年度予算の報告
- 3 新運営委員及び新無審査会員の報告
- 4 内規変更の報告
- 5 第54回日彫展審査員の報告
- 6 第54回日彫展会友推挙選考委員の報告
- 7 第17回日本彫刻会新鋭選抜・受賞作家展準備状況の報告
- 8 その他の報告

## 第54回日本彫刻会展覧会報告

①会期 令和7年4月18日(金)～5月2日(金)

4月21日(月) 休館

②会場 東京都美術館ギャラリーA・B・C

(東京都台東区上野公園8-36)

③陳列点数 241点(写真展示含む323点)

### 〈内訳〉

正会員 170点

会友 19点

遺作 2点

無鑑査(一般応募) 1点

鑑査(一般応募) 38点うち初入選 19点

U-20(一般応募) 11点ほか写真展示 82点

視覚に障がいのある子どもたちの作品展示 59点

### ④審査員

特別賞審査員 関根秀一氏 土方明司氏

日本彫刻会理事

審査員長 宮瀬富之

山本眞輔 池川直 清島浩徳 熊谷喜美子

徳安和博 野原昌代 鈴木徹男 堀内有子

前芝武史 宮坂慎司 村山哲 伊庭照実

志萱州朗 菊川敏

(以上15名)

### ⑤会友推挙選考委員

熊谷喜美子 鈴木徹男 野原昌代

村山哲(以上4名)

### ⑥受賞者

西望賞

上床利秋

文部科学大臣賞 武本大志

東京都知事賞 白石恵里

会員賞 吉居寛子

日彫賞 芦田風馬 竹内晋平

優秀賞 佐藤励 田畑智功 本多史弥

新人賞 北原朋佳 酒井華 宅間紗矢 中村勉

U-20日彫賞

一柳優揮人 谷和真 桑原結子

U-20優秀賞

紀平龍志 藏谷圭佑 須永晴香

千賀薫 竹中綴楽 土橋輝々 戸井耀人

宮崎太郎 (以上24名)

### ⑦会友推挙・正会員推挙

正会員推挙 井上智 菅野達乱 黒田雅大

小寺美樹 酒井華 鈴木伽奈

田畑智功 西里千草 本田史弥

三好眞理子

(以上10名)

### 会友推挙

栗田健一 黒柳日記 高曠寓

黄野俊明 徐錦璽 宅間紗矢

中村勉 堀井香宏 水沼博之

(以上9名)

### ⑧入場者数

8,844名(前回8,285名)

### (内訳)

#### 一般

133名

東京都美術館特別展半券 2,047名

招待状 4,731名

出品者 930名

障がい者手帳をお持ちの方 126名

付添者 59名

日本美術家連盟他 113名

65歳以上、大学生以下 459名

パスポート 246名

⑨ 開会式

日時 4月18日(金) 11時30分から  
会場 東京都美術館ギャラリーC

⑩ 表彰式

U-20受賞者対象

日時 4月19日(土) 14時から

会場 東京都美術館 ギャラリーC

本展受賞者対象

日時 4月19日(土) 17時から

会場 KKRホテル東京 瑞宝の間

(千代田区大手町1-4-1)

⑪ オープニングパーティ

日時 4月19日(土) 17時から

会場 KKRホテル東京 瑞宝の間

⑫ 彫刻研究会

第54回日彫展会場において、審査員による講評を交えた彫刻研究会を実施した。

日時 第1部 4月19日(土) 11時から

第2部 4月20日(日) 11時から

会場 東京都美術館ギャラリーA・B・C

参加者 通算 約60名

⑬ 新世代の彫刻家育成活動

第7回 U-20日彫展

会期・会場 日彫展に同じ

陳列点数(受賞者) 11点

写真応募点数 82点

⑭ 彫刻に触れる鑑賞支援活動

第54回日彫展において、「視覚に障がいがある方

のタッチツアー」と「盲学校鑑賞教室」を実施した。

a 視覚に障がいがある方のタッチツアー

(希望者の申込により随時実施)

通算参加者 16名(うち引率者8名)

〈鑑賞支援対応〉

当番の会員、(日彫友の会 ほか)

b 盲学校鑑賞教室

4月25日(金) 東京都立久我山青光学園

(中学生32名 教員16名)

4月25日(金) 筑波大学附属視覚特別支援学校

(小学生18名 教員6名)

〈鑑賞支援対応〉

宮坂慎司 秋田美鈴 上田ふみ 大亀清壽 高野浩子

境野里香 白石恵里 町野紗恭 水野谷憲郎

宮地淑江 音羽久美子 前芝武史 橋本和成

羽室陽森(日彫友の会 ほか) 北原朋佳 宅間紗矢

内藤千尋

4月29日(火・祝) 筑波大学附属視覚特別支援学校

(高校生16名、教員5名)

〈鑑賞支援対応〉

宮坂慎司 神谷睦代 坂本健 浮森夕菜

武本大志 長谷川倫子 奥平陽和 本多史弥

山田雅英

(日彫友の会 ほか) 須恵三樹 酒井華 半田こづえ

c 視覚に障がいのある子どもたちの作品展示

神奈川県立平塚盲学校 17点

東京都立久我山青光学園 21点

筑波大学附属視覚特別支援学校

小学部7点、中学部10点、高等部4点

協力…東海大学資格教育センター

共英製鋼株式会社

⑮ 彫刻鑑賞解説会(ギャラリートーク)

第54回日彫展において、「出品作家が語る鑑賞会(ギャラリートーク)」を実施した。

日時 期間中毎日

(彫刻研究会第1部当日、最終日を除く)

会場 東京都美術館ギャラリーA・B・C

実施通算参加者 92名

⑯ 図録作成

本会が開催する彫刻展覧会の図録を作成した。

第54回日彫展図録

2025年4月19日(土) 発行 900冊

⑰ 彫刻展覧会共催事業

a 第54回日彫東海展

会期 2025年7月15日(火)～7月21日(月・祝)

会場 愛知県美術館8階ギャラリー

(愛知県名古屋市中東区東桜1-13-2)

b 第54回日彫北陸展

会期 2025年8月21日(木)～8月25日(月)

会場 石川県立美術館(石川県金沢市出羽町2-1)

◇ 第7回 U-20 日彫展

2019年より企画展「U-20日彫展」集まれ!未来の彫刻家」を開催しています。第7回目を迎える本年は、応募総数が約93点となりました。

(U-20 対応)

小橋暁子 武本大志 鈴木紹陶武 奥平陽和

音羽久美子 宮地淑江 町野紗恭 丹羽俊揮



開会式の様子



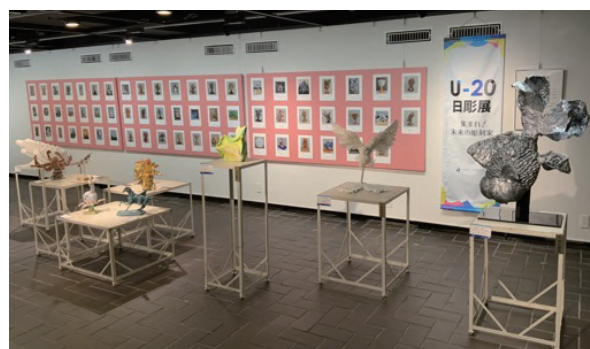
会場風景 陳列総数 323 点 (U-20 写真展示込み)



表彰式の様子



彫刻研究会



U-20 展示風景 応募総数 93 点



視覚に障がいがある子どもたちの作品展示

## ◇受賞者の声

西望賞 上床 利秋「空へ」

鉄工所で不要になった廃材や、集めた使い古しの鉄屑・部品を利用して、それらに新しい役割を与えて夢を感じる造形物を制作しようと思い、試行錯誤を重ねました。

粘土ではできない、石や木でも味わえない、鉄だからこそ可能な表現を探ってみました。ひん曲がり朽ちて錆びた鉄こそ、不思議な魅力を感じて効果的でした。



東京都知事賞 白石 恵里「群鳥Ⅱ」

思いや思考が身体から溢れ出すほど騒がしい様子、または絡まっていたものがほどけ霧散する2つのイメージを、人と鳥の融合で表現を試みているシリーズの2作品目です。ぎゅつとまとまるポーズを軸に検討し、何度も構成をし直しながら粘土を動かし造形しました。



会員賞

吉居 寛子「星降る空に」

夜空に輝く星の光は、何万光年もの時空を超えて現在に届いているという。壮大な時の流れに身を委ね、もの思いにふけてみると、人間の存在のなんと小さきことかと思わざるをえない。しかし、人間が生きた価値は時間ではなく、小さなことに悩んだりちよつとした優しさに救われたり、小さな気づきの積み重ねが人間の深さになるのだと私には思われる。



文部科学大臣賞 武本 大志「牛車を引く鬼」

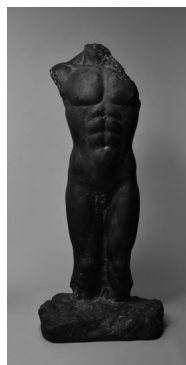
本作は妖怪「火車」をモチーフに制作しました。大八車を引いて人間の死体を奪う妖怪ですが、今作では牛車を引いています。今後は牛車の妖怪「朧車」と車輪の妖怪「輪入道」と組み作品となる予定です。乾漆技法の特徴的な積層による色合いを肌の部分に残しました。



日彫賞 芦田 風馬「風の街」



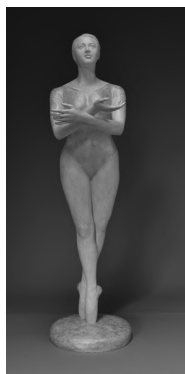
日彫賞 竹内 晋平「碑身」



優秀賞 佐藤 励「風に立つ」



優秀賞 田畑 智功「平和の花となれ」



優秀賞 本田 史弥「春花」



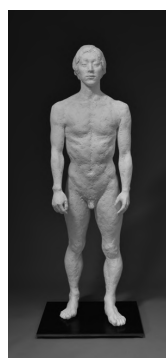
新人賞 北原 朋佳「満願」



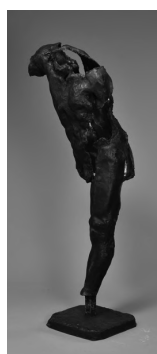
新人賞 酒井 華「ぬいぐるみ」



新人賞 宅間 紗矢「恵風」



新人賞 中村 勉「トルソの解放 (Liberation of Torso)」



U-20 日彫賞  
一柳 優揮人  
「カニ祭り」  
(10歳)



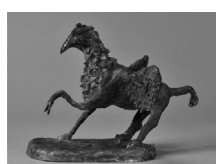
U-20 日彫賞  
谷 和真  
「深く、深く」  
(14歳)



U-20 日彫賞  
桑原 結子  
「白菜ドレス」  
(20歳)



U-20 優秀賞  
紀平 龍志  
「グリフィンの輝き」  
(10歳)



U-20 優秀賞  
藏谷 圭佑  
「山姥」  
(12歳)



U-20 優秀賞  
須永 晴香  
「デメキン」  
(15歳)



U-20 優秀賞  
千賀 薫  
「王者の貴祿」  
(10歳)



U-20 優秀賞  
竹中 綴楽  
「世にも奇妙なポインセチア」  
(9歳)



U-20 優秀賞  
土橋 輝々  
「コルニクス」  
(16歳)



U-20 優秀賞  
戸井 耀人  
「命を紡ぐ」  
(15歳)



U-20 優秀賞  
宮崎 太郎  
「伝説の生き物」  
(8歳)



## 第54回日彫東海展

会期 2025年7月15日（火）～7月21日（月・祝）

会場 愛知芸術文化センター8階ギャラリー

陳列総数 103点

入場者数 2,196名

愛知県知事賞

中日賞

東海テレビ賞

東海日彫会奨励賞

東海日彫会新人賞

「渴れる」田中厚好

「新しい光」高野眞吾

「朝」元田木山

「NOCTURNAL IDOL 阿麻乃弥加津比女」佐藤徹

「伴」黒柳日記



授賞式並びに祝賀会の様子



彫刻研究会の様子

7月14日（月）搬入および陳列作業が行われ、先生方のご指導のもと、より鑑賞しやすい展示を目指し、その後受賞者の審査が行われました。受賞者につきましては、記載の通りです。同日、同会場10階「ウルフギヤング・パック」にて表彰式および祝賀会が催され、宮瀬理事長、池川委員長をはじめ、審査員や巡回指定の先生方、中日新聞社、東海テレビ放送、後援者、そして来賓の皆様にご出席頂き、さらにU-20受賞者とその保護者も参加され、受賞者のスピーチが和やかなひと時を彩りました。

15日（火）午前10時30分より京都から宮瀬理事長をお迎えし、東海日彫会山本会長と神戸副会長による彫刻研究会が開催されました。巡回指定の先生方や一般来場者を含め、約40名が参加したこの研究会は、受賞者が自作について解説を行い、先生方から講評を賜る貴重な機会となりました。特に今回は受賞者以外の出席者にも講評が行われ、会場全体に緊張感が漂う中、各先生方から直接ご指導を賜る充実した内容となりました。ご指導賜った参加者は、今後の制作へとさらなる意欲を高める機会となりました。

19日（土）午後2時から、「触れて観る彫刻展鑑賞教室」が開催され、視覚障害者9名に加え、付き添いや引率学生を含めた24名が参加されました。さらに、21日（月・祝）にも問い合わせがあり、2名の視覚障害者の方が参加されました。アンケートによると、初めての参加者が10名を数え、新たな広がりや、「また参加したい」「来年も楽しみにしています」との嬉しいお声を頂きました。また、来場者数もコロナ禍以降、久しぶりに

2,100人を超える賑わいとなりました。

U-20や「触れて観る彫刻展鑑賞教室」において新たな広がりが生まれる中、日彫東海展を通じて地方からの彫刻芸術の発信や、次世代の育成に寄与していることを改めて実感し、その可能性に期待を寄せております。

またU-20の受賞者が地元の新聞に取り上げられるなど、メディアに注目されたことも特筆させて頂きます。

東海展の開催に際し、多くの日彫会会員の皆様にご理解とご協力を賜りましたこと、心より感謝申し上げます。この場をお借りして、改めて御礼申し上げます。

（東海日彫会事務局）



触れて観る彫刻展鑑賞教室の様子

# 第54回日彫北陸展

会期 令和7年8月21日（木）～8月25日（月）

会場 石川県立美術館（石川県金沢市出羽町2-1）

陳列点数 66点

（U-20入賞作品11点、石川・富山入選作品30点を含む）

入場者数 932名

北陸日彫会賞 「くるみの宝箱」 森田 一成

北國新聞社社長賞 「郷愁」 細川 大潤

第54回日彫北陸展は、会期前日の8月20日に搬入陳列を行いました。

午後4時から、宮瀬理事長、大樋年雄先生、石川県および金沢市の代表者、金沢美術工芸大学学長、石川県立美術館副館長、北國新聞社をはじめとする各報道機関代表など多数のご来賓をお迎えし、開会式を執り行いました。式典では、北陸展の表彰式も行いました。特に、今回は来賓として共催・後援関係者の方々に加え、石川県在住の芸術院会員である大樋年雄先生をお招きし、宮瀬理事長に続いてご挨拶をいただきました。

開会式後には、村井北陸日彫会会長の司会のもと、恒例のギャラリートークを実施しました。まず、宮瀬理事長がご自身の作品について解説され、来場者は制作意図に興味深く聞き入っていました。また、地方賞受賞者による作品解説や、U-20部門で受賞した地元の子どもたちへのインタビューも行われ、会場は終始和やかな雰囲気

気に包まれました。

今回は昨年に引き続き、北陸日彫会特別企画「発想展」を同時開催しました。彫刻作品が完成するまでの過程を示すデッサンや小作品を展示したほか、石川県と富山県から選ばれたU-20部門の入選作品30点も並び、会場を大いに賑わせました。

会期中の24日には、ワークショップを開催し、10組の方々にご参加いただきました。今回はポスターやチラシに二次元コードを印刷して募集したところ、早々に定員に達しました。

前回（第53回展）と比べて大幅に作品数が減ったため、入場者数の減少も懸念されましたが、多くの方々のご支援のおかげで、予想を上回る盛況な展覧会となりました。

（北陸日彫会石川県事務局）



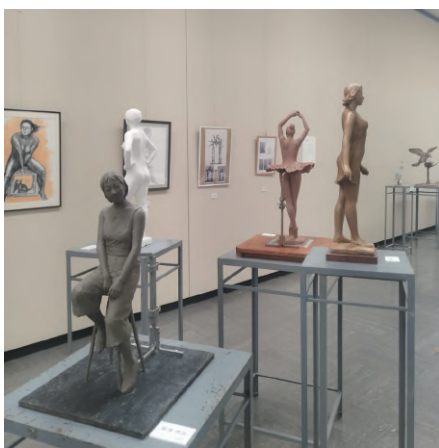
開会式の様子



開場式後のギャラリートークの様子



U-20 展示風景



発想展の様子



ワークショップの様子

## 第17回日本彫刻会

### 新鋭選抜・受賞作家展

2025年7月13日（日）から26日（土）まで、銀座のギャラリー・青羅にて「第17回 日本彫刻会 新鋭選抜・受賞作家展」が開催されました。

若手作家や本展での受賞者の作品が展示され、会期中には「作品を語る会」や懇親会も行われました。作家同士はもちろん、来場者との交流も生まれ、和やかで活気のある雰囲気となりました。



会場の様子

初日に開かれた「作品を語る会」では、町野紗恭会員が司会を務め、宮瀬富之理事長をはじめとする理事や会務委員の先生方から、あたたかな激励と講評をいただきました。出品者は、日常のさりげない一瞬から着想を得たことや、暮らしている土地の素材を取り入れたことなど、それぞれの制作背景を語り合い、有意義な時間となりました。

また、小品展示・販売も行われ、かわいらしい動物や人体像、アクセサリーなど、手に取りやすく親しみやすい作品がそろいました。陶やブロンズ、針金など多岐にわたる素材が使われ、多くの来場者が興味をもって鑑賞していました。いくつかの作品は購入にもつながりました。

会場には親子連れや外国人観光客の姿も多く、ふらりと立ち寄って作品を楽しむ方の姿も見られました。来場者は気に入った作品を写真に収めていらつしやる方もおられ、私たちの作品が、SNSを通して、多くの人の目に触れるようになってきました。会場には日本彫刻会のSNSアカウント情報も掲示されており、そこから本会の作家の他の作品や本展の様子にも関心を寄せていただくきっかけとなりました。

なお、長年会場として親しまれてきたギャラリー・青羅での展示は、建物改修のため今年度をもって終了となります。これまで支えてくださった方々に感謝を込め、今後多くの方に作品を楽しんでいただけるよう、作品制作に励んでまいります。



搬入の様子



小品作品の展示・販売



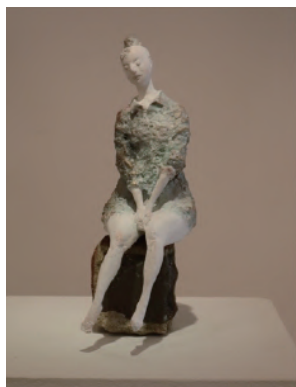
作品を語る会の様子と出品者の集合写真

## 出品作家に向けて

日彫会新人選抜展は1996年（H8）若手のための新人選抜展「貌展」（有楽町マリオン／朝日ギャラリー）を開催し、現在の形となりました。その翌年、第2回目の新人選抜展「翔展」の会場を銀座ギャラリーせいほうに移し、さらに1999年第3回目の新人選抜展を「日彫会新選抜'99」として銀座／美術館ギャラリー青羅に会場を移しこれまで名称を変えながら本展受賞者も含めた今の展覧会となっています。今年も出品者は本展ではなかなか発表できない試作、実験的な作品が多く見られ、実に出品者が今何を考え、何を表現しているのかギャラリートークなどを通してわかりやすく理解することができ、大変嬉しく、頼もしく思えました。表現は元々自由であり私たちがとる手段としての具象についてもそれぞれの考え方があります。それを互いの表現を通して考えていく機会としてとらえていただき年々其々の個性が光る展覧会となっているように感じています。私も最初の頭像をテーマにした「貌展」、2度の新人選抜展に出品し、まさに作品発表の中心でもある東京・銀座の地に全国より集まった仲間達、或いはライバル達と共演・競演した事を思い出しました。今回の展覧会は二度観させていただき本展受賞者と選抜された出品者の皆様が積極的に展覧会に参加され、全員で作り上げた立派な展覧会が印象に残りました。今後出品者の皆様が自己の思いを素直に表された表現に精励されます事をお祈りしています。

常務理事 委員長 池川直

第17回 日本彫刻会 新鋭選抜・受賞作家展 作品一覧



「潮風にのって」  
浮森 夕菜



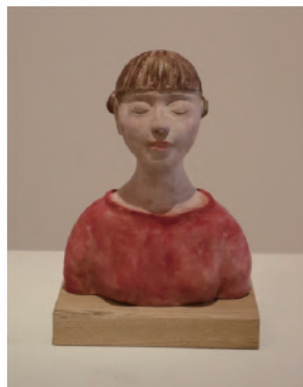
「光の街」  
芦田 風馬



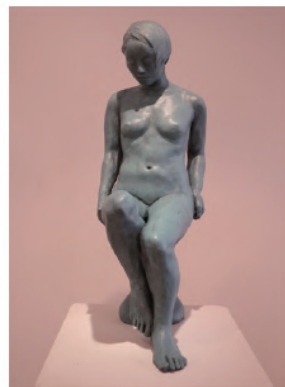
「波」  
秋田 美鈴



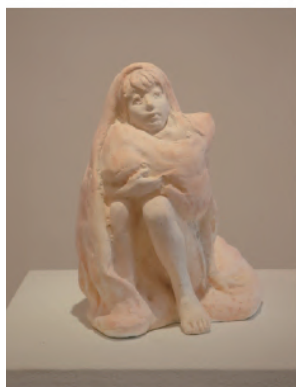
「馳す 〜森〜」  
加藤 真浩



「Oblivion」  
音羽 久美子



「青嵐」  
奥平 陽和



「ひきこもり生活」  
柴田 茜



「風が告ぐ」  
佐藤 励



「花束に」  
小橋 暁子



「残片」  
竹内 晋平



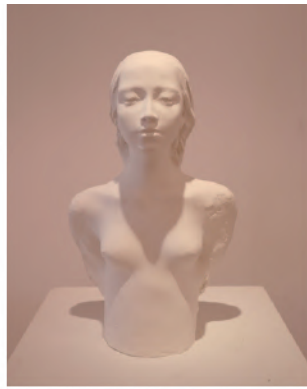
「The Flynfant」  
田上 万豊



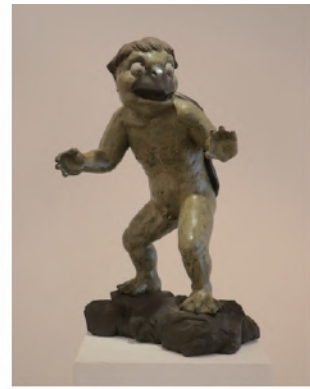
「ハチワレ」  
鈴木 紹陶武



「面」  
橋本 和成



「幻影」  
田原迫 華



「津山のごんご」  
武本 大志



「アルバム」  
町野 紗恭



「まなざし」  
本多 史弥



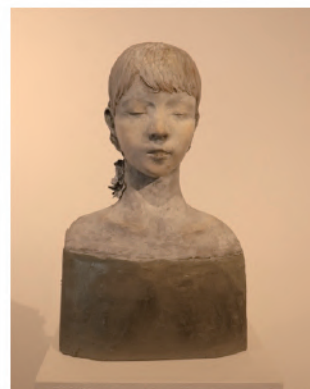
「Petrichor」  
細川 大潤



「大切なもの」  
八塚 由紀子



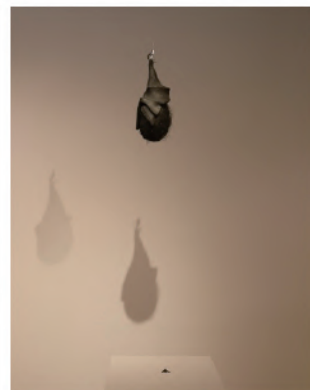
「葵」  
森田 一成



「紫陽花」  
村上 佑介



「それパパの靴や」  
山本 将之



「ん?!」  
山田 雅英

触れて、感じて、創造する喜び

## ― 盲学校・視覚特別支援学校

### 「触れるアート」―

第54回日本彫刻会展覧会において、視覚に障害のある子どもたちの作品を展示しました。「触れるアート 盲学校・視覚特別支援学校作品展示」と題した子どもたちの展示は、本年度で3回目となります。U・20の作品展示と並列した触れるアートのコーナーは、障害の有無を超えて、子どもたちの自由な表現の場となりました。

本年度はテラコッタだけでなく、木彫や、鉄筋と紙粘土を組み合わせた作品も並び、自由な造形に加え、素材の面でもより一層多彩な展示となりました。出品数は59点にのぼり、昨年度と比べ4倍近くの数に達するなど、活動の大きな広がりが感じられます。

この取り組みの一つとして、宮坂慎司会員と東海大学が連携し、平塚盲学校にて「異形棒鋼」を使ったワークショップが行われました。異形棒鋼とは建築などで使われる構造材料の一つで、表面に凹凸の加工がされた鉄筋のことです。使用した鉄筋は英製鋼株式会社からご提供いただきました。子



▲会場での展示風景

どもたちは、鉄筋の切れ端や、ベンダーで曲げた部材を紙粘土と組み合わせて、

思い思いに独創的な世界を表現しました。

制作では、鉄筋の製造過程でごく稀に生じる「ミスロール」も造形の素材になりました。

ミスロールとは、工場

において鉄を圧延する工程の中で、長い鉄筋が途中で引つかり、グネグネと曲がつて、規格外となった鋼材のことです。子どもは、そのミスロールに触り、気に入った形が決まったらカットする部分を選択し、切り出し、唯一無二の作品として磨き上げました。工場で「製品」として生まれた素材が、子どもたちの想像力によって温かみのあるアート作品へと生まれ変わりました。

このほかにも、例年「彫刻鑑賞教室」に参加している東京都立久我山青光学園や筑波大学附属視覚特別支援学校の作品も展示されました。特に久我山青光学園の作品は、会員によるワークショップではなく、日々の授業の中で生まれたものです。多くの方々からご支援をいただいたクラウドファンディングも含め、関連の活動は着実にその輪を広げています。これらの活動を通じて、子どもたちにとってアートがより身近なものとなることを願っています。これからも、障害の有無を問わず、多くの子どもが彫刻芸術の触覚的な魅力を感じられるよう努めていきたいと思っています。

(町野紗恭)



▲学校での授業の様子

## 月刊『教育美術』で紹介されました

子どもの造形・美術教育の指導者に向けた日本唯一の美術教育雑誌『教育美術』は、公益財団法人教育美術振興会が発行しており、同会は毎年、応募点数が9万点を超える「全国教育美術展」を開催しています。

千葉県の中学校に勤務する石崎義弘会員が記事を投稿し、U・20日彫展、視覚特別支援学校の子どもの作品展示が紹介されました。立体造形作品にスポットをあてた稀有な取り組みとして、多くの人を知っていただくきっかけとなりました。今後、次世代に向けた活動として立体造形への関心をさらに広げるものと期待しています。



▲実際の掲載記事



## U・20出品者の今

U・20日彫展も、本年で7年目を迎えました。自由でのびのびとした感性が光る作品で集まり、若さあふれるエネルギーと活気に満ちています。その存在は、日彫展にとって欠かせない彩りとなり、私たちにとっても大きな刺激となつています。今回は「これまでU・20に出品した方々が、どのような道を歩んでいくのか」取材しました。

ご紹介するのは、本年の第7回展でU・20日彫賞を受賞した桑原結子さんです。桑原さんは昨年度の第6回展で入選し、本年の第7回展では白菜の葉をドレスに見立てたユニークな木彫作品でU・20日彫賞を受賞しました。

桑原さんは、「昨年は写真を展示していただきましたが、今年は多くの方に実物を見ていただけたことがとにかく嬉しかったです。想像上のものが形となり、誰かの目に届く喜びは彫刻ならではだと思います。」と振り返ります。また本展への挑戦では、剣道の面をつける人物を表した等身大の作品を制作し入選果たしました。

▼U-20日彫賞受賞作



▲本展での出品作

U・20の出品者の中から、本展への挑戦者が現れ、さらには入選を果たす姿を見ることができたのは、大変喜ばしいことです。桑原さんの真つすぐで謙虚な姿勢は、私たちに多くの気づきを与えてくれます。こうした若い出品者の方々と、互いに良い刺激を与え合いながら、制作活動が続けていきたいと思いました。これからもU・20出品者たちの活動を期待しています。

(柴田茜)

## 会員の皆様へ 展覧会情報をご提供のお願い

このたび日彫会では、会員の皆さまによる個展やグループ展などの展覧会情報を広くご紹介し、彫刻の魅力をより多くの方々にお届けすることを目的として、SNSでの情報発信を強化してまいります。つきましては、下記の内容について、メールにてご提供いただけますと幸いです。何卒ご協力の程よろしくお願い申し上げます。

### 【2】【1】これから始まる展覧会（告知用）

- 開催中または過去に開催された展覧会（記録用）
- ① チラシやDMの画像
  - ② 展覧会名
  - ③ 会期・時間
  - ④ 会場名・所在地
  - ⑤ 出品作家名
  - ⑥ 展示概要
  - ⑦ 作品や会場の写真（5点程度／高解像度推奨）
  - ⑧ コメント・感想（任意、100～200字程度）

## 訃報

左記の方が逝去されました。謹んで哀悼の意を表し、ご冥福をお祈り申し上げます。

|     |       |    |         |
|-----|-------|----|---------|
| 正会員 | 島田 恭宏 | 先生 | 令和6年10月 |
| 正会員 | 久保 浩  | 先生 | 令和7年2月  |
| 正会員 | 松岡 高則 | 先生 | 令和7年6月  |
| 正会員 | 得能 節朗 | 先生 | 令和7年7月  |

◆今季は猛暑の夏となりました。とりわけ彫刻は制作場所が屋外であったり、土の乾燥を防ぐためにエアコンを使わず制作をなさる方も多いと思います。水分補給を忘れず、熱中症の予防にはくれぐれもお気をつけください。

◆3Dプリンタなどのデジタルツールが便利に活用できるようになり、また、生成AIの注目度も高まっています。デジタルツールを効果的に用いた上で、我々の手仕事ならではの良さをむしろ強みにできるよう、皆で知恵を絞っていききたいところです。

### 出版・広報委員（五十音順）

加藤 真浩  
高野 浩子  
柴田 茜  
高野 眞吾  
田丸 稔  
(主任)  
寺山 三佳

日彫会報 No.84

令和7年10月15日発行



公益社団法人 日本彫刻会

# 公式 SNS はじめました

本展での様子や作品紹介、  
各会員の展覧会情報などをお届けしています！

昨今の SNS の普及にともない日本彫刻会でも各種 SNS にて公式アカウントを開設しています。  
春の日彫展での展覧会風景はもちろんのこと、ここでしか聞けない各受賞者の声や、会場準備の風景  
若手による選抜展の紹介や、各先生方の個展・グループ展情報など  
ここでしか得られない情報が盛りだくさんの内容になっています。

お手持ちのスマートフォン、タブレット、パソコンなどからアクセスして頂き  
各種 SNS にてチャンネル登録、フォローなどよろしくお願いいたします。



公益社団法人 日本彫刻会



Instagram

japan\_sculptors\_association



ここでしか見れない情報も盛りだくさん！

公式 SNS をはじめ、会員の多くの方が様々な SNS を利用しています。

気になる作家のフォロー、チャンネル登録なども

よろしくお願いいたします！